

I 実践

1 研究主題

思いやりの心を育み、自他の立場や気持ちを考えて公正公平にふるまう態度を養う人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「夢をもち、心豊かに、たくましく生きる日高っ子の育成」である。「心豊かに」は人権尊重の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」に深いかかわりをもつ。この教育目標の具現化のための努力事項の施策の1つに「ハートいっぱい夢プラン」の推進がある。日高の人、自然、文化を愛し、地域社会や郷土の自然文化と共に生きる心豊かで思いやりのある日高っ子の育成を目指している。

また、自閉症・情緒障害学級「しいのき教室」、知的障害学級「ゆりのき教室」、言語障害学級「ことばの教室」もあり、特別支援学級の児童と共に学んでいこうとする姿勢を身に付けることも大切であるとする。

そこで、集団活動を通して、思いやりの心を育み、自他の立場や気持ちを考えて公正公平にふるまう態度を養うことをねらい、本主題を設定した。

(2) 研究内容

- ア 職員研修により、人権意識の高揚と力量のアップを図る。
- イ 各教科・領域の学習を通して、思いやりの心を育て、公正公平な態度を養う。
- ウ 異学年交流活動を推進し、思いやりの心を育てる。
- エ 草花の栽培、清掃や奉仕活動を通して、生命の大切さを理解し、ボランティア精神を育てる。
- オ よい行いを奨励し（日高っ子賞）、思いやりの心を育てる。
- カ 「オアシスサ・ハイ運動」による学校・地域に響き渡る元気なあいさつを通して、基本的な生活態度や習慣の育成を図る。
- キ 高齢者や地域の人々との交流行事に参加して、感謝や思いやりの心を育てる。

2 実践内容

(1) 職員研修

- ア 人権教育の在り方についての再確認
- イ 人権教育ビデオ視聴「みんないちばん！」他

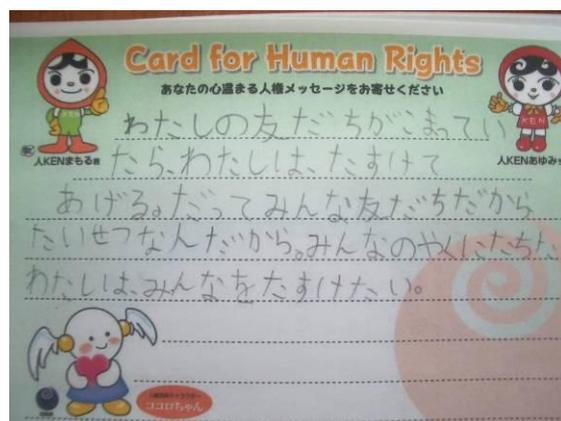
(2) 4年生の総合的な学習の時間「高齢者にやさしく」

- ア 運動会の予行練習や運動会の敬老種目への招待
- イ 日高地区三世代スポレク祭の参加
- ウ ひたちの森ガーデンへの訪問
 - ・ 運動会のダンス種目「ソーラン」を披露した。たいへんお年寄りに喜ばれた。
 - ・ 児童手作りの紙芝居やトランプゲームなどで、お年寄りと交流を深めながら、相手の立場になって話すことを学んだ。



(3) 人権メッセージの取り組み

各学級で人権ビデオを視聴し、自分のことも相手のことも大切に作る心に触れた。そこから、自分ならどうするか児童一人一人が考え、人権メッセージとして言葉にまとめた。



(4) 異学年交流行事

日高フェスティバル、1年生と2年生によるおもちゃフェスティバル、兄弟学級遊びなど

(5) 「人権の花」の栽培

昨年度から学校の花壇に「人権の花」のコーナーを設置している。草花の栽培を通して、生命の尊さを学び、みんなで栽培することで協力する心も育っている。

(9) 日高っ子賞

思いやりのある行動やみんなが気持ちよくなる清掃活動などに贈られ、全校朝会等で表彰されている。本年度は、低学年の児童が地域のゴミを拾いながら登校する姿が多くみられるようになった。

(10) オアシスサ・ハイ運動

高学年の事務局の児童が中心となって、朝、昇降口に立ち、あいさつ運動を実施している。6月と11月のマナーアップ週間では、中学生・地域の方と共に校門付近に立ち、あいさつ運動を展開している。

(11) おんもさ祭への参加

地域自治会が中心となって行われるこの祭に、日高小児童のコーナーが設けられている。地域の方や教師の支援を受けながら、児童が自分たちで考えたゲームコーナーを運営している。



3 成果

- ・ 「人権メッセージ」の取り組みでは、人権に関するビデオ等を見て人権について考えた。そのため児童一人一人が、人権について「友達のことを考える」「家族を大切にしたい」「自分もできることをがんばろう」など身近なこととして考えることができた。
- ・ 継続して取り組んでいる「オアシスサ・ハイ運動」や「日高っ子賞」により、あいさつや清掃活動など少しずつではあるが、校内から地域へと広がっている。

II 課題

- ・ 現在ある「人権コーナー」を身近なものにするために、人権に関する行事や授業の児童の感想や考えなどを掲示していきたい。